福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1067集

有田・小田部　47

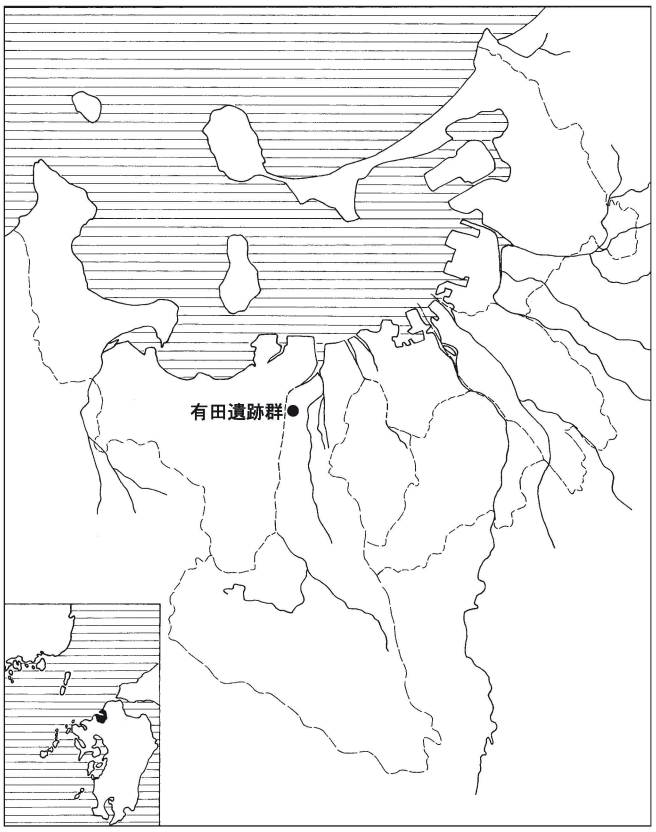
－ 第132、137、221、223、228、229、231、232次調査の報告 －

2010
福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1067集

有田・小田部　47

－ 第132、137、221、223、228、229、231、232次調査の報告 －



遺跡略号	ART－132	137	221	223	228	229	231	232
調査番号	8749	8804	0549	0565	0814	0816	0848	0858

2010
福岡市教育委員会

序

古くから大陸文化を受け入れる窓口として栄えた福岡市には数多くの文化財が存在しています。それらは本市のみならず国のかけがえのない財産でありますが、開発によりやむを得ず失われる埋蔵文化財については事前に記録保存調査を行い、後世に伝えるようつとめております。

本書で報告する有田遺跡群は、早良平野の北部に位置する台地上に展開する遺跡です。昭和42年に区画整理事業に伴い九州大学文学部考古学研究室が発掘調査を実施し、昭和48年度からは福岡市教育委員会が発掘調査を実施しています。平成21年度まで235次に及ぶ発掘調査を行いました。旧石器時代から現代に至る複合遺跡で、弥生時代開始期の環濠集落、古代官衙と考えられる建物群、戦国時代の小田部城など各時代を通じて重要な遺構や遺物の発見があります。

今回の報告は昭和62年度から平成20年度にかけて調査したものです。有田、小田部の台地上で展開した歴史を具体的に示す資料を得ることができました。

本書が埋蔵文化財保護に対する理解と認識を深める一助となるとともに、学術研究の資料として活用いただけることを心より願っております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成22年3月23日

福岡市教育委員会
教育長　山田裕嗣

例　言

１．本書は福岡市早良区有田遺跡群における開発に伴い、福岡市教育委員会が国庫補助事業で実施した発掘調査の報告書である。

２．本書は昭和62年度の第132次調査、昭和63年度の第137次調査、平成17年度の第221、223次調査、平成20年度の第228、229、231、232次調査を収録している。

３．各調査と報告は以下の者が担当し、全体の編集を森本が行った。記述方法や内容については各担当者に任せており、調査ごとに例言を付している。

第１３２、１３７次調査　　山崎龍雄
第２２１、２２３次調査　　久住猛雄
第２２８、２２９次調査　　森本幹彦
第２３１次調査　　木下博文
第２３２次調査　　加藤隆也

４．各調査の出土遺物や実測図、写真などの記録類は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管する予定であるので、広く活用されたい。

有田遺跡群　第132次調査		遺跡調査番号	８７４９
地　　番	福岡市早良区有田1丁目8-3	遺 跡 略 号	ART-132
調 査 期 間	1988年1月25日～3月3日	調 査 面 積	142㎡

有田遺跡群　第137次調査		遺跡調査番号	８８０４
地　　番	福岡市早良区有田1丁目8-4	遺 跡 略 号	ART-137
調 査 期 間	1988年4月15日～6月6日	調 査 面 積	134㎡

有田遺跡群　第221次調査		遺跡調査番号	０５４９
地　　番	福岡市早良区有田1丁目31番5	遺 跡 略 号	ART-221
調 査 期 間	2006年1月6日～1月20日（本調査）	調 査 面 積	59.17㎡

有田遺跡群　第223次調査		遺跡調査番号	０５６５
地　　番	福岡市早良区小田部３丁目204番２	遺 跡 略 号	ART-223
調 査 期 間	2006年1月26日～3月10日	調 査 面 積	107.14㎡

有田遺跡群　第228次調査		遺跡調査番号	０８１４
地　　番	福岡市早良区有田1丁目11-9	遺 跡 略 号	ART-228
調 査 期 間	2008年6月２日～6月11日	調 査 面 積	71㎡

有田遺跡群　第229次調査		遺跡調査番号	０８１６
地　　番	福岡市早良区小田部1丁目177-4	遺 跡 略 号	ART-229
調 査 期 間	2008年年6月16日～6月20日	調 査 面 積	26㎡

有田遺跡群　第231次調査		遺跡調査番号	０８４８
地　　番	福岡市早良区小田部１丁目216－１	遺 跡 略 号	ＡＲＴ－231
調 査 期 間	2008年10月29日～11月10日	調 査 面 積	80.61㎡

有田遺跡群　第232次調査		遺跡調査番号	０８５８
地　　番	早良区小田部三丁目247番	遺 跡 略 号	ＡＲＴ-232
調 査 期 間	2009年2月17日～3月6日	調 査 面 積	202㎡

本　文　目　次

第1章　はじめに …… 1

第2章　調査の記録

第132次調査 …… 5

1.はじめに（7）　2.調査の記録（7）　3．まとめ（16）

第137次調査 …… 21

1.はじめに（23）　2.調査の記録（23）　3．まとめ（49）

第221次調査 …… 57

1.調査に至る経緯（59）　2.調査の組織（59）　3.調査地点の位置と立地（60）　4.調査の記録（61）
5.まとめ（69）

第223次調査 …… 73

1.調査に至る経緯（75）　2.調査の組織（75）　3.調査地点の位置と立地（76）　4.調査の記録（79）
5.まとめ（94）

第228次調査 …… 101

1.はじめに（103）　2.調査の概要（105）　3.遺構（105）　4.出土遺物（109）　5.まとめ（112）

第229次調査 …… 117

1.はじめに（119）　2.調査の概要（121）　3.遺構（121）　4.遺物（121）　5.まとめ（121）

第231次調査 …… 123

1.はじめに（125）　2.調査の記録（125）　3．まとめ（126）

コラム　有田遺跡群における古代官衙関連遺構 …… 128

第232次調査 …… 129

１.位置と周辺環境（131）　２.調査に至る経過（131）　３.検出遺構と遺物（131）
４.まとめ（132）

挿　図　目　次

第1章

Fig. 1　有田遺跡群と周辺の遺跡(１/25000)
Fig. 2　有田遺跡群調査地点位置図(1/7500)
表　　有田遺跡群調査一覧

第2章

第132次調査

Fig.1　第132次調査区遺構全体図(1/100)
Fig.2　SB01～03(1/80)
Fig.3　SB05(1/80)
Fig.4　SB01・03・04・05出土遺物(1/3・1/2・1/1)
Fig.5　SD01出土遺物(1/3)
Fig.6　SK01～05と出土遺物(1/40・1/3・1/1)
Fig.7　ピット出土遺物(1/3・1/1)
Fig.8　包含層・表土出土遺物(1/3)
PL.1　(1) 第132次調査区全景(東から)(2) SB01柱穴P2断面(東から)(3) SB01柱穴P3断面(東から)(4) SD01(北東から)
PL.2　(1) SB03 P2羽口出土状況(西から)(2) SK01(南から)
PL.3　(1) SK03(北から)　(2) SK05(南から)
PL.4　各遺構出土遺物(縮尺不統一)

第137次調査

Fig.1　第137次調査区第1面・第2面遺構全体図(1/100)
Fig.2　調査区各壁土層(1/60)
Fig.3　SB01と出土遺物(1/80・1/3)
Fig.4　SK01～09(1/40)
Fig.5　SD01・02土層と出土遺物(1/40・1/4)
Fig.6　各土坑出土遺物(1/4・1/3)
Fig.7　第1面ピット出土遺物(1/4・1/3)
Fig.8　SA01・02、SB11～14、SX01と出土遺物(1/160・1/80・1/4)
Fig.9　石組み遺構SX01(1/30)
Fig.10　第2面ピット出土遺物(1/4)
Fig.11　各遺構出土石器と鉄器(1/4・1/3・1/2・2/3)
Fig.12　包含層出土一括土器(1/4)
Fig.13　包含層第1層出土土器(1/4)
Fig.14　包含層第1層、第2層、下層出土土器(1/4)
Fig.15　包含層南側下層土器群1(1/4)
Fig.16　包含層南側下層土器群2(1/4・1/5)
Fig.17　包含層南側下層土器群3(1/4)
Fig.18　包含層南側下層土器群4(1/4)
Fig.19　包含層南側下層土器群5(1/4・1/5)
Fig.20　包含層南側下層土器群6(1/4)
Fig.21　包含層南側下層土器群7(1/4・1/3)
Fig.22　包含層出土石器1(1/3)
Fig.23　包含層出土石器2(1/3)
Fig.24　包含層出土石器3(1/3・2/3)
Fig.25　第132次・第137次調査区測量図(1/200)
PL.1 (1) 第137次調査区全景(南から)(2) 第1面全景(南から)
PL.2 (1) SB01(西から)(2) SD02(西から)(3) SK01・02(北西から)(4) SK03・04(東から)(5) SK07・08(東から)(6) SK06全景(南から)
PL.3 (1) 第2面全景(南から)(2) 第2面包含層完掘後全景(南から)
PL.4 (1) SB11～14検出状況(西から)(2) SP82遺物出土状況(北から)(3) SP151遺物出土状況
PL.5 (1) 南側段落ち部土器群の状況(西から)(2) 同　出土状況(北から)(3) 一括土器出土状況(東から)(4) 古墳時代遺物出土状況(南から)(5)石組み遺構SX01(東から)
PL.6　各遺構出土土器(縮尺不統一)
PL.7　(1) 包含層出土土器・土製品(縮尺不統一)(2) 各遺構出土石器(縮尺不統一)

第221次調査

Fig.1　有田遺跡群221次調査地点の位置(1/25,000)
Fig.2　有田221次調査の位置と周辺の調査地点(1/1,000)
Fig.3　有田221次調査と周囲調査の遺構分布(1/500)
Fig.4　有田221次調査全体図(確認調査含む)(1/200)
Fig.5　有田221次調査全体図(1/80)
Fig.6　SD03・SD04北側土層断面図(1/40)
Fig.7　調査区南側壁面SD02, SD01ほか土層断面図(1/40)
Fig.8　SD01・SD03ほか断面図(1/50)
Fig.9　SA01実測図(1/50)
Fig.10　SB01実測図(1/40)
Fig.11　有田221次確認調査部分遺構分布図(1/100)
Fig.12　有田221次出土遺物実測図(１)(1/3, 1/2)
Fig.13　有田221次出土遺物実測図(２)(1/1)
表１　SD03・SD04北側土層図(Fig.6)注記
表２　調査区南側壁面土層図(Fig.7)注記
Ph.1　第221次調査区全景(南東から)
Ph.2　調査区全景(東から;手前はSD02)
Ph.3　調査区全景(北から)
Ph.4　SD01底面遺構検出状況(北から)
Ph.5　SD03北側土層状況(南から)
Ph.6　SD03・SD04北側土層状況(南から)
Ph.7　SD02南側土層状況(北から)
Ph.8　SD01南側土層状況(北から)
Ph.9　確認調査作業状況(北東から)
Ph.10　確認調査遺構検出状況(西から)

第223次調査

Fig.1　有田遺跡群223次調査地点の位置(1/25,000)
Fig.2　有田223次調査の位置と周辺の調査地点(1/1,000)
Fig.3　有田223次調査地点と周辺街区(1/500)
Fig.4　有田223次調査全体図(1/80)
Fig.5　調査区北西壁面土層図(1/40)

Fig.7　SE023実測図・土層図(1/30)
Fig.8　SK005,SK027実測図(1/30)
Fig.9　SK041,SX004実測図(1/40)
Fig.10　SX(SK)122実測図・土層図(1/40)
Fig.11　SX(SC)021実測図・土層図(1/40)
Fig.12　SC022実測図・土層図(1/30)
Fig.13　SC022実測図(２)(掘り方)(1/30)
Fig.14　SC101実測図(1/30)
Fig.15　SC102実測図(1/30)
Fig.16　SX001(SC103？),SD002実測図(1/30)
Fig.17　SB02,SB05実測図(1/60)
Fig.18　SB01実測図(1/60)
Fig.19　SB04実測図(1/60)
Fig.20　SB06,SB03実測図(1/60)
Fig.21　SE023,SX041,SX122,SX021,SC022出土遺物実測図(1/3,一部1/4)
Fig.22　ピット出土遺物実測図(1/3),各遺構出土石器・石製品実測図(1/3,1/2,1/1)
Fig.23　SX010出土縄文土器実測図(1/3)
表１　調査区北西壁面土層図(Fig.5)注記
表２　SE023土層図(Fig.7)注記
表３　SX122土層図(Fig.10)注記
表４　SX021土層図(Fig.11)注記
表５　SC022土層図(Fig.12)注記
Ph.1　第223次調査Ⅱ区全景(西から)
Ph.2　有田223次調査作業風景(Ⅱ区;西から)
Ph.3　Ⅰ区全景(南から;中央から手前はSC101・102)
Ph.4　Ⅰ区全景(北東部分除く)(東から)
Ph.5　Ⅰ区北半調査状況(西から)
Ph.6　Ⅰ区西壁北半土層状況(東から)
Ph.7　Ⅰ区南西隅調査状況(北西から)
Ph.8　Ⅰ区北半調査状況(南東から)
Ph.9　Ⅰ区SK005遺物出土状況(南東から)
Ph.10　Ⅰ区SK005完掘状況(北から)
Ph.11　Ⅰ区SE012完掘状況(南から)
Ph.12　Ⅱ区全景(南西側除く)(西から)
Ph.13　Ⅱ区東半調査状況(SX021・SC022)(南から)
Ph.14　Ⅱ区西半調査状況(南から)
Ph.15　Ⅱ区SE023土層・掘削状況(南から)
Ph.16　Ⅱ区SX027検出状況(南東から)
Ph.17　Ⅱ区SC022掘り方完掘状況(北東から)
Ph.18　Ⅱ区SC022掘削状況(貼床面・カマド遺存状況)(南西から)
Ph.19　SC022カマド縦断土層状況(北西から)
Ph.20　SC022カマド上部遺存状況(南西から)
Ph.21　SC022カマド下部遺存状況(南西から)
Ph.22　SC022カマド下部遺存状況・右袖部土層状況(西から)
Ph.23　Ⅱ区SX021南北土層状況(東から)
Ph.24　SX021東西土層状況(南から)
Ph.25　SX021完掘状況(東から)
Ph.26　Ⅱ区SX122南北土層状況(西から)
Ph.27　SX122完掘状況(北西から)
Ph.28　SX122底面木質(有機物)痕跡(北から)

第228次調査

Fig.1　228次調査地点周辺(1/500)
Fig.2　調査区全体図(1/60)
Fig.3　調査区西壁と東壁の土層(SD断面　1/30)
Fig.4　SU実測図(1/20)
Fig.5　SC実測図(1/60、1/40)
Fig.6　SU出土土器実測図(1/3)
Fig.7　SB実測図(1/60)
Fig.8　SA実測図(1/60)
Fig.9　SC、SB、SA等出土土器実測図(1/3)
Fig.10　SD出土遺物実測図(1/3、1/2)
Fig.11　石器実測図(1/1)
Fig.12　220次と228次の柵とみられる柱穴列(1/400)
Ph.1　調査区全景(南から)
Ph.2　SU(東から)
Ph.3　SU土層堆積(東から)
Ph.4　SA (東から)
Ph.5　SD(東から)
Ph.6　調査区東壁SD断面(西から)
Ph.7　SU出土弥生土器
Ph.8　SD出土瓦質足鍋
Ph.9　剥片鏃

第229次調査

Fig.1　229次調査地点周辺(1/500)
Fig.2　調査区全体図(1/50)
Fig.3　土層図(1/40)
Fig.4　出土須恵器実測図(1/3)
Ph.1　調査区全景(西から)
Ph.2　08周辺(南から)
Ph.3　調査区西部ピット群(東から)

第231次調査

Fig.1　調査地点の位置(1/2000)
Fig.2　調査区平面図(１/200)
Fig.3　ＳＢ01平面図(1/60)
Ph.1　調査区全景(南から)
Ph.2　ＳＢ01(北から)

コラム

Fig.　有田遺跡群の古墳時代後期～古代の大型建物・柵・区画溝(1/25000)

第232次調査

Fig.1　調査区全体図(1/200)
Fig.2　調査区位置図(1/500)
Ph. 1　調査区全景(南から)
ph. 2　遺構検出状況(北西から)

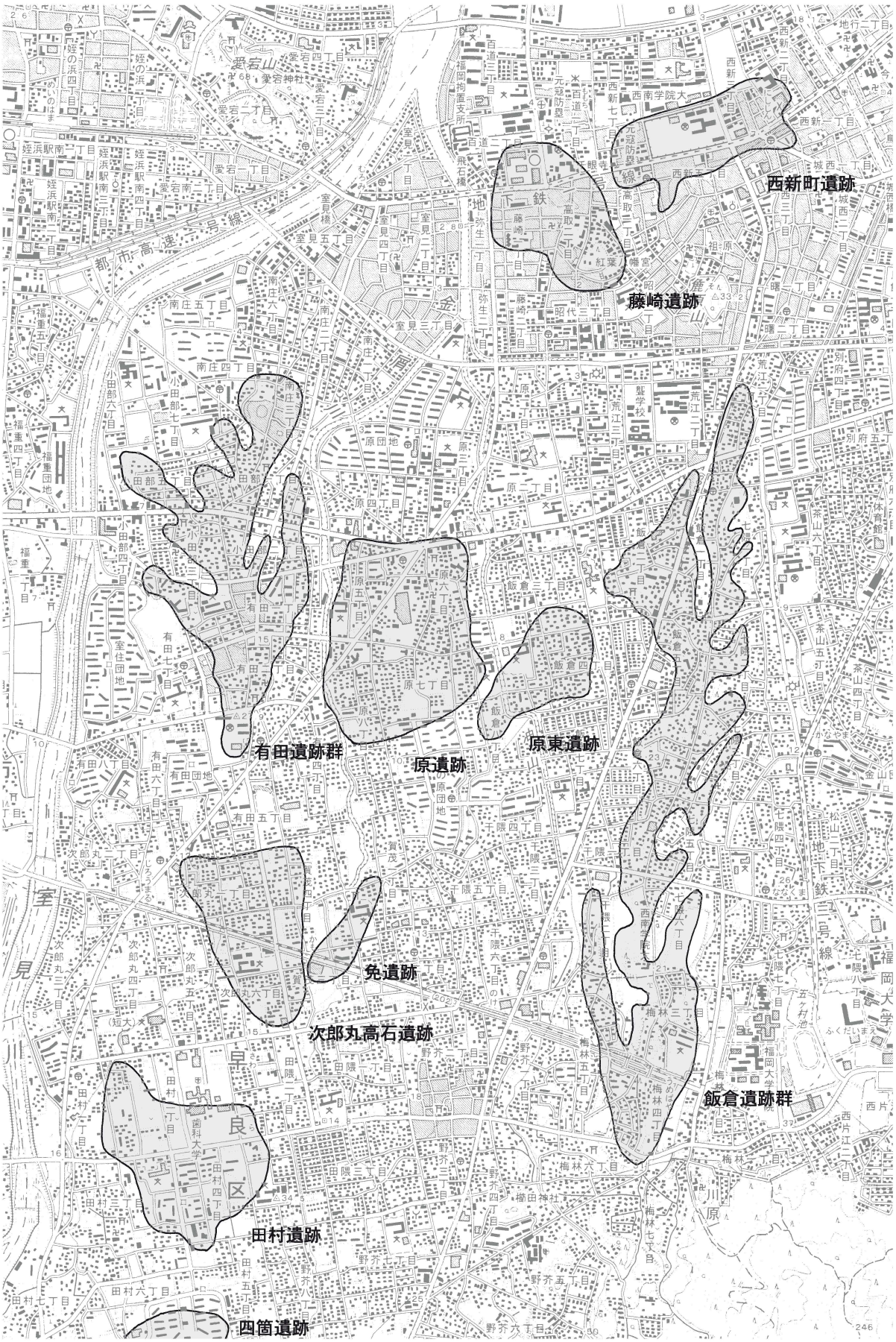


Fig. 1　有田遺跡群と周辺の遺跡(1/25000)

第1章　はじめに

有田遺跡群は早良平野の北部に位置する標高10m前後の洪積中位段丘面に展開する遺跡で、現町名は有田1・2丁目、小田部1~3丁目、5丁目、南庄3丁目に当たる。西の室見川と東の金屑川に挟まれた南北1.8km、東西0.8kmの台地上であるが、侵食谷が何本も入り込むヤツデの葉状の地形であるので、各尾根筋は幅500mにも満たない。昭和30年代までは農村集落があり、台地上の大部分は畑地であった。昭和40年代になると、区画整理事業が行われ、宅地化が進む。有田遺跡群の最初の調査はこの区画整理事業にともなうもので、九州大学考古学研究室によって、2次の調査が行われた。その後、住宅地や商業地の開発が活発となり、福岡市教育委員会が調査主体となるが、平成21年度現在で調査次数は235次を数えるまでになった(Fig.2、表)。

有田遺跡群の歴史的環境や全体的な調査成果については、これまでの報告書で幾度となく語られているので、ここでは述べない。本書で報告する第132、137、221、223、228、229、231、232次調査地点は遺跡群内各所の局所的な歴史的変遷を明らかにする資料を提供しており、有田遺跡群についての理解を深める一助となるだろう。

有田遺跡群調査一覧表

調査次数	調査番号	調査原因	所在地	調査面積(㎡)	福岡市報告書(集)
1	6501	区画整理	大字有田	500.0	1 (九州大学調査)
2a	6603	区画整理	大字有田	900.0	2 (九州大学調査)
2b	7322		南庄		
3a	7503	共同住宅	小田部1丁目152	1,000.0	43
3b	7504	共同住宅	有田1丁目２３－１	1,836.0	43・155
4	7710	共同住宅	小田部2丁目139		470
5	7711	共同住宅	小田部3丁目184,185	750.0	113
6	7712	共同住宅	有田1丁目20-3		377
7	7821	個人住宅	有田1丁目8-10	573.0	81
8	7822	個人住宅	有田1丁目13-12	191.0	81
9	7823	個人住宅	小田部1丁目174-12	135.0	870
10	7824	個人住宅	小田部2丁目54	200.0	870
11	7825	個人住宅	小田部3丁目312	67.0	870
12	7826	個人住宅	有田1丁目37-11	304.0	870
13	7827	個人住宅	小田部2丁目73-2	60.0	870
14	7828	個人住宅	小田部3丁目281-2	372.0	870
15	7829	個人住宅	小田部1丁目54-1	368.0	971
16	7830	個人住宅	小田部5丁目	163.0	870
17	7831	個人住宅	有田1丁目20-9	136.0	58
18	7913	個人住宅	有田1丁目32-1	17.0	
19	7914	個人住宅	有田1丁目24-4	146.0	96
20	7915	個人住宅	有田2丁目14-20		
21	7916	個人住宅	有田2丁目13-16	155.0	58
22	7917	個人住宅	小田部5丁目25	119.0	58
23	7918	個人住宅	有田1丁目26-2	329.0	58
24	7919	個人住宅	有田2丁目10-7	79.0	58
25	7920	個人住宅	小田部1丁目237-1	101.0	58
26	7921	個人住宅	小田部1丁目219	133.0	58
27	7922	個人住宅	小田部1丁目241	89.0	58
28	7923	個人住宅	有田1丁目20-2	125.0	81
29	7924	個人住宅	有田1丁目33-2	256.0	81
30	7925	個人住宅	有田１丁目27-2	596.0	110
31	7926	個人住宅	有田1丁目34-2	339.0	81
32	7927	個人住宅	有田1丁目29-9	232.0	96
33	8005	個人住宅	小田部1丁目230,231	296.0	81
34	8006	宅地造成	小田部1丁目157	587.0	81
35	8007	共同住宅	小田部5丁目150	181.0	173
36	8008	個人住宅	小田部5丁目143-2	241.0	96
37	8009	個人住宅	小田部1丁目237-3	147.0	96
38	8010	個人住宅	小田部1丁目198	131.0	96
39	8011	個人住宅	有田1丁目37-82	405.0	113
40	8012	個人住宅	有田1丁目26-1	137.0	96
41	8013	個人住宅	小田部3丁目307	73.0	96
42	8104	個人住宅	有田2丁目85	126.0	96
43	8105	個人住宅	有田2丁目7-88	403.0	155
44	8106	個人住宅	有田2丁目14-9	223.0	110
45	8107	個人住宅	有田2丁目22-15	24.0	96
46	8108	個人住宅	小田部5丁目143-1	164.0	110
47	8109	個人住宅	有田1丁目28-7,8	372.0	110
48	8110	個人住宅	小田部2丁目140	458.0	110
49	8111	共同住宅	小田部2丁目20番、21番	384.0	110
50	8112	個人住宅	小田部3丁目11-2,6-2	123.0	377
51	8113	店舗	有田1丁目23-6	314.0	113
52	8114	個人住宅	小田部2丁目110-2	483.0	139

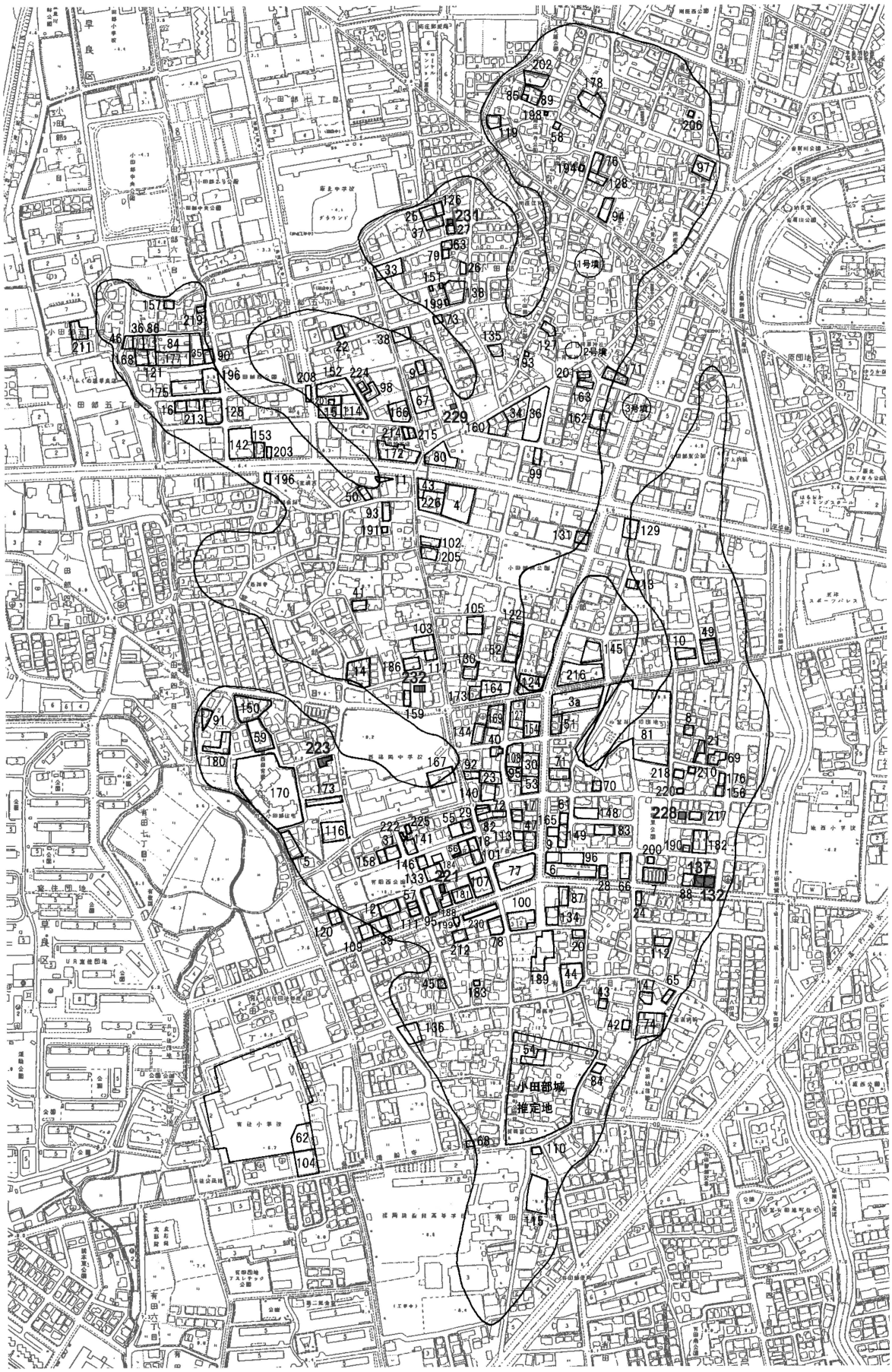


Fig. 2　有田遺跡群調査地点位置図(1/7500)

調査次数	調査番号	調査原因	所在地	調査面積(㎡)	福岡市報告書(集)
53	8115	共同住宅	有田1丁目28-3,4	425.0	113
54	8116	寺社	有田2丁目16-1	233.0	427
55	8117	個人住宅	有田1丁目33-3	290.0	110
56	8118	寺社	有田1丁目32-9	146.0	113
57	8119	個人住宅	有田1丁目37-2	109.0	113
58	8120	個人住宅	南庄3丁目185,186	167.0	377
59	8121	保育園	小田部3丁目177	838.0	84.139
60	8122	道路	小田部3丁目178-2	21.0	139
61	8123	倉庫	有田2丁目21-2	119.0	377
62 (七田前)	8133	学校	有田七田前391-3外	1,260.0	95
63	8204	個人住宅	小田部1丁目224	115.0	110
64	8205	共同住宅	小田部5丁目141-1ほか	311.0	155
65	8206	個人住宅	有田2丁目7-10	36.0	377
66	8207	個人住宅	有田1丁目20-1	503.0	113
67	8208	土地売却	小田部1丁目171ほか	685.0	377
68	8209	個人住宅	有田2丁目17-24	76.0	427
69	8210	個人住宅	有田1丁目13-10	202.0	427
70	8211	個人住宅	有田1丁目17-1,2	136.0	173
71	8212	個人住宅	有田1丁目22-4,7	341.0	173
72	8213	個人住宅	有田1丁目26-3	482.0	173
73	8214	個人住宅	小田部1丁目189	62.0	427
74	8215	個人住宅	有田2丁目7-80	1,010.0	471
75	8216	個人住宅	有田1丁目27-11,7	424.0	110
76	8304	土地売却	南庄3丁目114-3	289.0	113
77	8305	共同住宅	有田1丁目30-1～3	385.0	471
78	8306	個人住宅	有田2丁目20-2	398.0	471.538
79	8307	個人住宅	小田部1丁目225-1	109.0	538
80	8308	土地売却	小田部1丁目168	764.0	547
81	8309	共同住宅	有田1丁目	8,000.0	129
82	8310	土地売却	有田1丁目29-13,14	405.0	139
83	8311	共同住宅	有田1丁目127-3	300.0	139
84	8312	個人住宅	有田2丁目7-66	196.0	
85	8313	個人住宅	南庄3丁目261-1	93.0	
86	8314	個人住宅	小田部5丁目143-3	220.0	113
87	8315	個人住宅	有田2丁目12番地6	230.0	139
88	8316	個人住宅	有田1丁目８－７	221.0	
89	8317	個人住宅	南庄3丁目261-1	230.0	
90	8318	個人住宅	小田部5丁目149-1	226.0	
91	8417	共同住宅	小田部3丁目153	282.0	
92	8418	個人住宅	有田1丁目26-6	195.0	
93	8419	個人住宅	小田部3丁目401	54.0	
94	8420	個人住宅	南庄3丁目172	279.0	
95	8421	倉庫	有田1丁目31-4	657.0	139
96	8422	駐車場	有田1丁目20-5	426.0	
97	8423	土地売却	南庄3丁目90	305.0	139
98	8424	共同住宅	小田部5丁目44	257.0	
99	8425	共同住宅	小田部1丁目147,150	252.0	
100	8510	共同住宅	有田2丁目13-2	650.0	212
101	8511	個人住宅	有田1丁目32-2	215.0	139

調査次数	調査番号	調査原因	所在地	調査面積(㎡)	福岡市報告書(集)
102	8512	個人住宅	小田部2丁目178	330.0	173
103	8513	個人住宅	小田部3丁目287	501.0	212
104	8514	学術調査	有田七前田387-1	544.0	九州大学調査
105	8515	個人住宅	小田部2丁目178	660.0	173
106	8538	個人住宅	小田部5丁目162番地	706.0	651
116 A区	8543	個人住宅	小田部3丁目189-1	435.0	308
107	8602	倉庫	有田１丁目31-1/-2	879.0	234
108	8603	共同住宅	有田１丁目27-1外	787.0	155.173
109	8611	個人住宅	有田１丁目37-8	110.0	173
110	8623	個人住宅	有田3丁目71	231.0	308
111	8624	個人住宅	有田１丁目37-3	135.0	173
118	8639	下水道埋設	有田１･2丁目地内	2,647.0	266
112	8644	個人住宅	有田2丁目9-2	264.0	308
113	8646	個人住宅	有田１丁目28-6	138.0	234
114	8651	駐車場	小田部5丁目51-2外	888.0	308
115	8655	個人住宅	有田3丁目8-53	160.0	684
116 B区	8656	個人住宅	小田部3丁目189-1	335.0	308
117	8657	個人住宅	小田部3丁目3-14	163.0	173
119	8701	個人住宅	南庄3丁目270-1,271-4	203.0	264
120	8705	個人住宅	有田１丁目38-3,9	77.0	234
121	8706	個人住宅	小田部5丁目154-2	165.0	264
122	8707	個人住宅	小田部2丁目11-16	375.0	173
123	8712	下水道埋設	有田１･2丁目, 小田部２～4丁目地内	2,544.0	266
124	8713	共同住宅	有田１丁目24-4	650.0	725
125	8718	個人住宅	小田部5丁目171	722.0	340
126	8724	個人住宅	小田部１丁目34-9	111.0	264
127	8729	個人住宅	小田部１丁目418-1	180.0	264
128	8730	個人住宅	南庄3丁目116	213.0	264
129	8735	個人住宅	小田部2丁目38	386.0	264
130	8739		小田部2丁目185-2	293.0	212
131	8742		小田部2丁目131	118.0	234
132	8749		有田１丁目8-3	142.0	1067
133	8750		有田１丁目32-4	443.0	234
134	8753		有田2丁目12-3･4	406.0	212
135	8754		有田一2丁目361	145.0	340
136	8803		有田2丁目22-3	460.0	378
137	8804		有田１丁目8-4	134.0	1067
138	8811		小田部１丁目204	801.0	308
139	8813	下水道埋設	小田部２･3丁目	5,500.0	266
140	8815		有田１丁目29-10	155.0	340
141	8822		有田１丁目33-6	250.0	378
142	8836		小田部5丁目17-10	790.0	378
143	8836		小田部5丁目73-74	562.0	378
144	8844		有田１丁目25-4	405.0	264
145	8851		小田部2丁目90	682.0	340
146	8853		有田１丁目32-6	80.0	234
147	8854		有田2丁目13-5	228.0	426.651

調査次数	調査番号	調査原因	所在地	調査面積(㎡)	福岡市報告書(集)
148	8861		有田１丁目18-4	414.0	340.426
149	8905	分譲住宅	有田１丁目21-3	145.0	234
150	8912	自宅兼共同住宅	小田部3丁目163	1,087.0	725
151	8919	分譲住宅	小田部１丁目203･207	70.0	308
152	8953	店舗	小田部5丁目48,49	770.0	265
153	8960	宅地造成	小田部5丁目70,71	263.0	426
154	8961	店舗	有田１丁目24-2	382.0	307
155	8965	下水道埋設	有田地内	573.5	266
156	8979	個人住宅	有田１丁目12-2	131.0	264
157	8980	個人住宅	小田部5丁目131-1	128.0	264
158	9020	個人住宅	有田１丁目34−3	214.0	308
159	9027	事務所	小田部3丁目251	207.0	307
160	9029	共同住宅	小田部3丁目251	508.0	339
161	9033	下水道埋設	有田地内	200.0	266
162	9034	共同住宅	小田部１丁目108他	132.0	264
163	9036	共同住宅	小田部１丁目123	150.0	307
164	9041	共同住宅	小田部2丁目106	416.0	308
165	9047	倉庫	有田１丁目21-11	198.0	307
166	9106	個人住宅	小田部5丁目5-39外	409.0	年報6
167	9117	校舎	小田部3丁目32-1	520.0	434
168	9132	個人住宅	小田部5丁目154-1	455.0	684
169	9147	共同住宅	有田１丁目25-1	175.0	339
170	9251	市営住宅	小田部3丁目179-1	750.0	473
171	9301	診療所	小田部1丁目104.507	447.0	870
172	9332	共同住宅	小田部5丁目61	717.0	472
173	9338	道路	小田部3丁目189-1.198	250.0	473
174	9340	共同住宅	小田部2丁目194.195	143.0	年報8
175	9401	共同住宅	小田部5丁目160～164	640.0	513
176	9417	個人住宅	有田1丁目6-1	123.0	470
177	9422	共同住宅	小田部5丁目150-3	480.0	513
178	9516	ﾏﾝｼｮﾝ	南庄3丁目214	747.0	512
179	9524	店舗付共同住宅	小田部2丁目102番地外	120.0	513
180	9527	個人住宅	小田部3丁目158-1番地	292.0	684
181	9607	学習塾	有田2丁目31-4	464.0	574
182	9625	個人住宅	有田1丁目10-4	351.0	657
183	9634	事務所	有田2丁目24-26	66.0	870
184	9676	通信塔	有田１丁目32-8	150.0	574
185	9717	個人住宅	小田部１丁目126	120.0	年報12
186	9721	共同住宅	小田部３丁目285,286	252.0	657
187	9727	個人住宅	有田２丁目12-5	494.0	657
188	9759	共同住宅	有田１丁目31−6	249.0	608
189	9803	共同住宅	有田２丁目	1,290.0	649
190	9832	個人住宅	有田１丁目1-10-7	27.2	657
191	9847	個人住宅	小田部３丁目	169.5	870
192	9914	個人住宅	有田２丁目13-3	72.7	657
193	9924	個人住宅	小田部１丁目393	9.0	657
194	9929	農機具倉庫	南庄３丁目181	78.0	784
195	9931	個人住宅	小田部５丁目16-3	131.0	784

調査次数	調査番号	調査原因	所在地	調査面積(㎡)	福岡市報告書(集)
196	9967	店舗付個人住宅	小田部３丁目16･17-2	69.0	784
197	0013	個人住宅	小田部１丁目３３－１３	48.0	年報15
198	0020	個人住宅	南庄３丁目２０５－５	45.0	870
199	0036	自動車展示場	有田２丁目20-8他	45.0	870
200	0038	個人住宅	有田１丁目８番14	169.0	870
201	0103	個人住宅	小田部１丁目16-2	105.6	784
202	0117	共同住宅	南庄3丁目255の一部、256	502.0	735
203	0213	個人住宅	小田部５丁目82-1･-2	119.4	784
204	0231	店舗併用住宅	有田1丁目25-13、-12	74.0	784
205	0256	自宅兼共同住宅	小田部２丁目155-1,156	346.0	869
206	0301	個人住宅	南庄3丁目72番3	66.0	870
207	0359	共同住宅	有田1丁目16-3	50.0	年報18
208	0412	道路･南庄小田部線	小田部5丁目87-2、87-3	91.0	年報19
209	0416	共同住宅	小田部５丁目49-2、50-1、51-2、54-1	67.0	年報19
210	0417	個人住宅	有田１丁目12-9	40.0	870
211	0428	共同住宅	小田部５丁目193	433.0	871
212	0429	個人住宅	有田２丁目20-10	195.0	年報19
213	0438	個人住宅	小田部5丁目170-1	106.0	年報19
214	0448	個人住宅	小田部５丁目60番の一部	128.0	年報19
215	0466	個人住宅	小田部５丁目60番の一部	48.0	870
216	0484	共同住宅	小田部2丁目91、92-1、92-2	1,405.3	919
217	0508	個人住宅	有田1丁目11-4	39.4	年報20
218	0515	個人住宅	有田1丁目12-7	95.8	920
219	0519	個人住宅	小田部5丁目15-5	32.4	920
220	0542	個人住宅	有田1丁目12-6の一部	37.4	年報20
221	0549	共同住宅	有田1丁目31-5	59.2	1067
222	0557	個人住宅	有田1丁目31-5	38.1	920
223	0565	個人住宅	小田部3丁目204-2	107.1	1067
224	0616	個人住宅	小田部5丁目47-1,47-2	98.5	920
225	0638	個人住宅(車庫)	有田1丁目33-7	34.5	920
226	0735	スポーツクラブ	小田部２丁目139,140,141,142,144	810.0	1024
227	0753	個人住宅	小田部1丁目387番1	81.0	年報22
228	0814	個人住宅	有田１丁目11番9	71.0	1067
229	0816	個人住宅	小田部1丁目177番4	26.0	1067
230	0834	共同住宅	有田2丁目20-1,20-13	300.0	1068
231	0848	個人住宅	小田部1丁目216-1	80.6	1067
232	0858	個人住宅	小田部3丁目247番	202.0	1067
233	0925	個人住宅	有田1丁目8番8	131.5	
234	0927	有田西公園改築	有田1丁目	1,070.0	
235	0931	個人住宅	有田１丁目32番5、32-14	324.0	

第 132 次調査

例　言

(1)　本報告『有田47』のうち「有田遺跡群第132次調査報告」は、福岡市教育委員会が、昭和62年度の国庫補助事業として、早良区有田1丁目8-3で個人住宅建設に先だって調査を実施した有田遺跡群第132次調査の発掘調査報告書である。

(2)　発掘調査は上記の主体により行われ、発掘調査は小林義彦、山崎龍雄が行い、報告書の作成は山崎が行った。

(3)　遺構の呼称は記号化し、柵列→SA、建物跡→SB、溝状遺構→SD、土坑→SK、柱穴→SP、性格不明遺構→SXとしている。

(4)　遺構の実測と写真撮影は小林が行い、遺物の実測と撮影は山崎が行った。

(5)　本報告に使用した図面の浄書は山崎が行った。

(6)　本報告に使用した方位は磁北であり、真北とは6°18′西偏する。

(7)　土層・遺物の色調の記録については新版標準土色帖に基づいている。

(8)　調査に係る記録類・出土遺物は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、活用していく予定である。

(9)　本報告の執筆・編集は山崎が行った。

調査基本情報

遺　跡　名	有田遺跡群	調　査　次　数	１３２	調　査　略　号	ART－132
調 査 番 号	８７４９	分布地図図幅名	No.82原	遺跡登録番号	０３０９
申請地面積	200㎡	調査対象面積	200㎡	調　査　面　積	142㎡
調 査 期 間	昭和63（1988）年1月25日～3月3日			事前審査番号	62－2－72
調　査　地	福岡市早良区有田1丁目8－3				

1．はじめに

1） 調査に至る経緯

早良区有田・小田部・南庄地区に所在する有田遺跡群は、市内でも有数の重要遺跡として、昭和52年度から国庫補助金を受けて、開発により破壊を避けられない個人専用住宅や小規模開発に対しても発掘調査を行い、記録保存を図って来た。今回の調査は昭和62年3月27日に、早良区有田1丁目8-3に個人より住宅改築の申請（事前審査番号62-2-72）を受けたもので、周辺の調査例から遺跡が存在することが予想されたので、家屋の解体後に調査を行うこととなった。調査は国庫補助事業として行った。発掘調査は昭和63(1988)年1月25日～3月3日まで行った。整理・報告書作成は平成21年度に国庫補助事業として行った。調査にあたっては、申請者及び関係各位、地元の方々にご理解と協力を受けた。末尾ではあるが記して感謝の意を表する次第である。

2） 調査の組織

【昭和62年度調査】

調査主体	福岡市教育委員会文化部埋蔵文化財課	
調査総括	文化部埋蔵文化財課課長	柳田純孝
	同課第2係長	飛高憲雄
調査庶務	同課第1係係員	岸田　隆
調査担当	同課第2係係員	小林義彦、山崎龍雄

【平成21年度整理】

整理総括	文化財部埋蔵文化財第2課課長	田中寿夫
	同課調査第1係長	杉山富雄
調査庶務	文化財部文化財管理課管理係	古賀とも子
整理担当	埋蔵文化財第2課主任文化財主事	山崎龍雄
整理作業	木藤直子	

2．調査の記録

1） 調査の概要（Fig.1、PL.1）

調査区は有田遺跡群の東南部に位置する。台地の東縁を北流する金屑川に向かって緩く傾斜する標高約8mの台地東側緩斜面上に立地する。本調査区の西側には本報告書で報告の第137次調査、第88次調査などがある。

調査は旧建物解体後に実施したが、作業効率を上げるため、表土を場外へ持ち出した。調査区の北西隅には厚さ10～15㎝程の遺物包含層が残っていたが、斜面はすでに削平を受けていたために遺物包含層は消失していた。検出遺構は掘立柱建物5棟、土坑5基、溝状遺構1条である。申請面積は200㎡、調査面積は142㎡である。

2） 調査の記録

① 掘立柱建物

SB01（Fig.2・4、PL 1・4）

調査区の西側で検出した主軸を磁北からN-8°30′-Eに取る、梁間・桁行2間×4間以上の側柱建物。規模は梁間4.10m、桁行7.60～7.65mを測る。柱穴平面形は方形または楕円形で、規模は長軸長が

最大約1.2mを測り大型であるが、深さ約0.3～0.6mとそれほど深くない。柱径は痕跡から15㎝前後である。

出土遺物　各柱穴から弥生土器や古墳時代から古代にかけての土師器・須恵器が出土している。1～5は須恵器。1は高台が付く坏の口縁部。復元口径9.8㎝を測る。調整は回転ナデ。2は坏の小片。調整は回転ヨコナデであるが自然釉がかかる。1・2共小田富士夫氏編年のⅥ期頃7世紀後半のものか。3～5は坏身。3はⅢB～ⅣA期頃のもの。復元口径10.1㎝、器高3.2㎝を測る。外底部1/2は回転ケズリ、他は回転ヨコナデと内底部はナデ。4はⅣB期。復元口径9.2㎝を測る。調整は回転ヨコナデ。5はⅣA期頃の口縁部。調整は回転ヨコナデ。6～10は土師器。6は小型の甕。7世紀後半のもの。復元口径13.6㎝を測る。器壁は摩滅するが胴部外面粗いハケ目が残り、内面は摩滅するがヘラケズリ。色調は鈍い橙色を呈し、7㎜以下石英・長石粗砂粒多く混入。7～9は坏口縁。7は小片で復元口径12.8㎝を測る。器壁は摩滅し調整は不明。8は復元口径13.6㎝を測る。外面黒斑がある。器壁は摩滅し調整は不明。焼成はやや不良。7・8共に胎土は精良。9は復元口径11.8㎝を測る。器壁は摩滅し調整不明。色調は浅黄橙色を呈し、焼成はやや不良。10は高坏の脚部。調整はヨコナデ、器壁は内面剥落している。色調は灰白色を呈し、胎土は2㎜以下石英砂粒含む。焼成はやや不良。7世紀後半頃

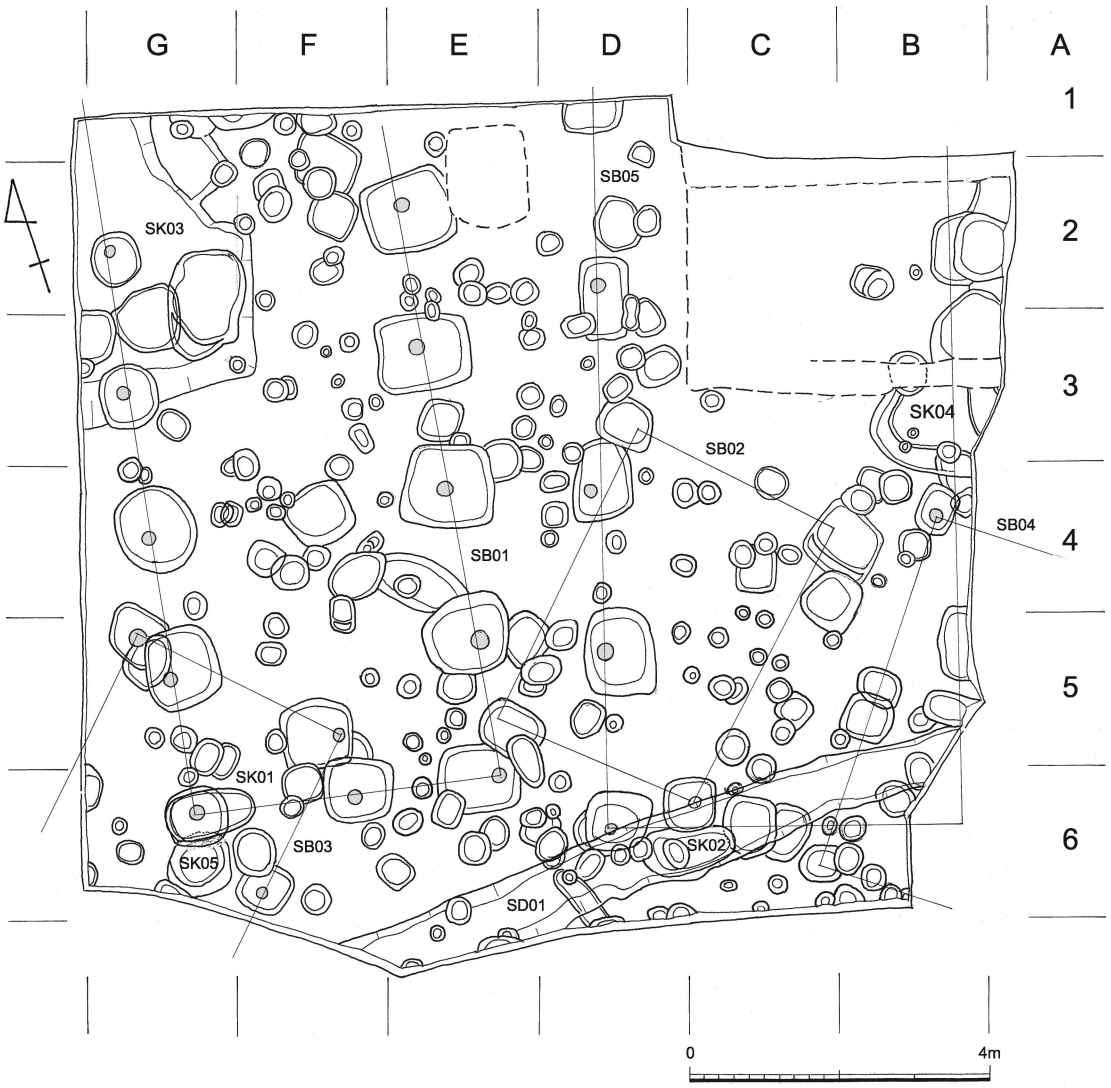


Fig.1　第132次調査区遺構全体図（1/100）

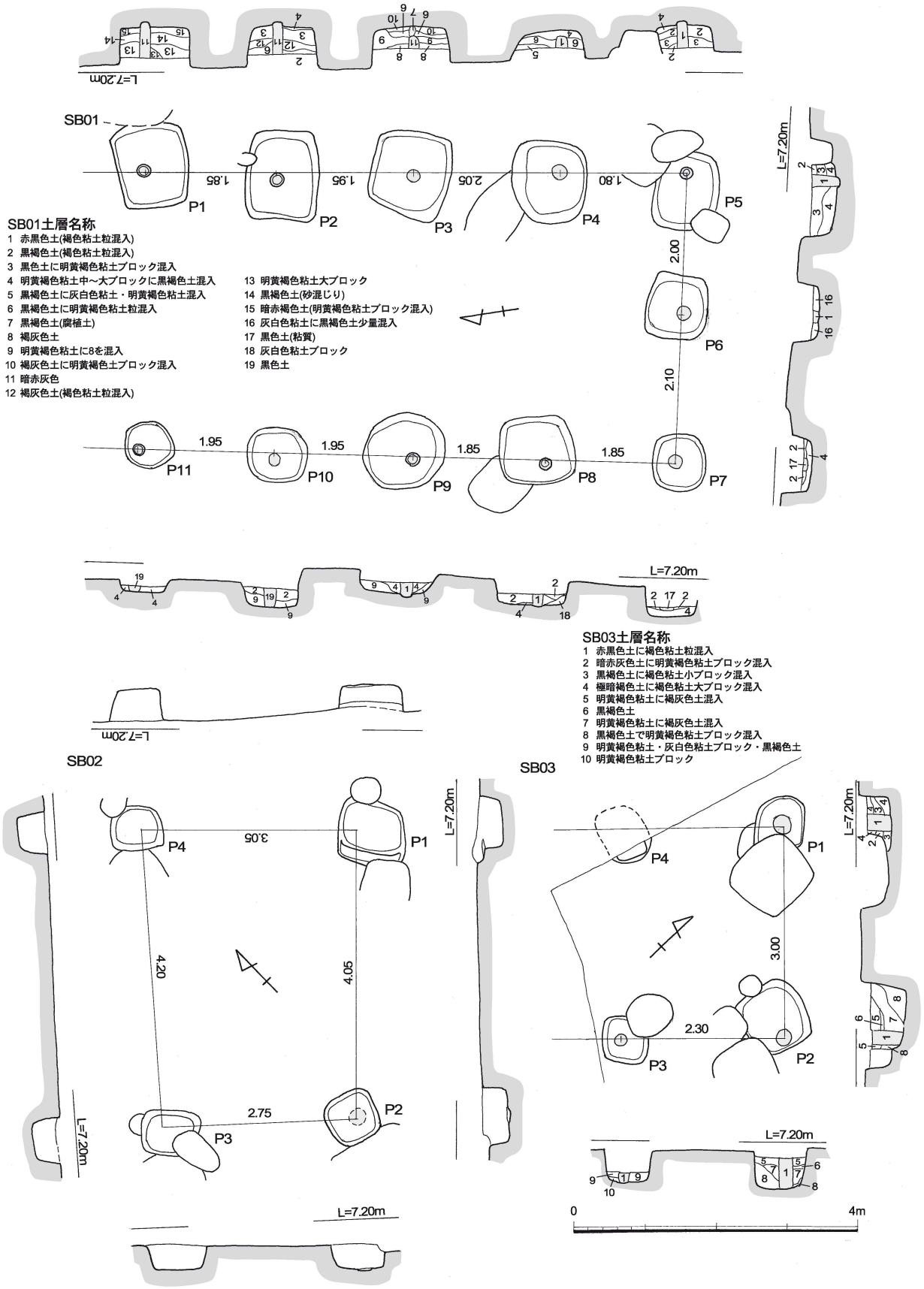


Fig.2　SB01～03（1/80）

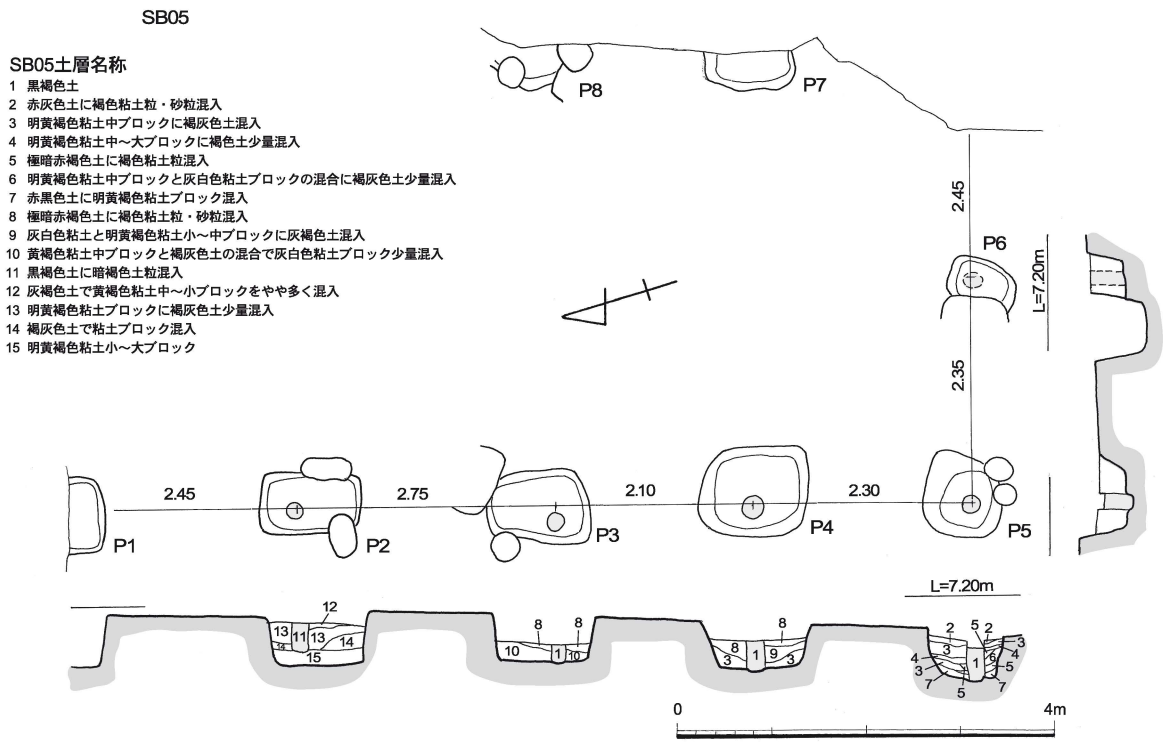


Fig.3　SB05（1/80）

のものか。11は盤か鉢の口縁部。復元口径16.6㎝を測る。器壁は摩滅し調整は不明。色調は鈍い橙色を呈し、胎土に1㎜内外白色・赤色粒子を多く含む。16は砥石の一部。使用により欠損している。残存長15.7㎝、残存最大幅6.0㎝を測る。砥面表面には使用擦痕や削り痕が残る。17は基部が平基の黒曜石の石鏃。鏃身1.95㎝、幅1.3㎝、厚み0.3㎝を測る。一部自然面が残り、やや雑なつくりではあるが、側縁は細かい二次調整を加えている。3・7・16はP1出土。8はP2出土。2・5はP3出土、1・11・17はP5出土。10はP7出土。6・9はP8出土。4はP9出土。

SB02（Fig.2、PL.1）

SB01・05を切る主軸をN-47°-Eに取る1間×1間の建物。規模は梁間2.75～3.05m、桁行4.05～4.20mを測る。柱穴平面形は方形または長方形で、規模は長軸長約0.7～0.95mを測り、深さ約0.35～0.4mでそれほど深くない。削平を受けているのであろう。柱径は残る痕跡から約20㎝と推定する。

出土遺物　各柱穴から弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器、黒曜石剥片、石斧片などが出土しているが、いずれも細片で時期を示すものはない。

SB03（Fig.2・4、PL.1・2・4）

調査区南西隅で検出した主軸をN-45°30′-Eに取る、SB01に切られる建物の一部。全体は不明であるが、西に隣接する第137次調査区には延びず、南側に延びると考える。規模は1間×1間かそれ以上で、梁間3.00m、桁行2.30mを測る。柱穴平面形は方形で、規模は長軸長約0.65～1.0m、深さ約0.45～0.60mを測る。柱径は残る柱痕跡から15～20㎝と推定する。

出土遺物　2基の柱穴から弥生土器と古墳時代以降の土師器、鞴羽口、黒曜石剥片などが出土している。12は鞴羽口。残存長12.3㎝、最大径7.3㎝、孔径2.3㎝を測る。調整は面取り後ナデで、先端は使用により焼けて灰～灰白色に変色している。胎土は4㎜内石英・長石砂粒を多く混入する。

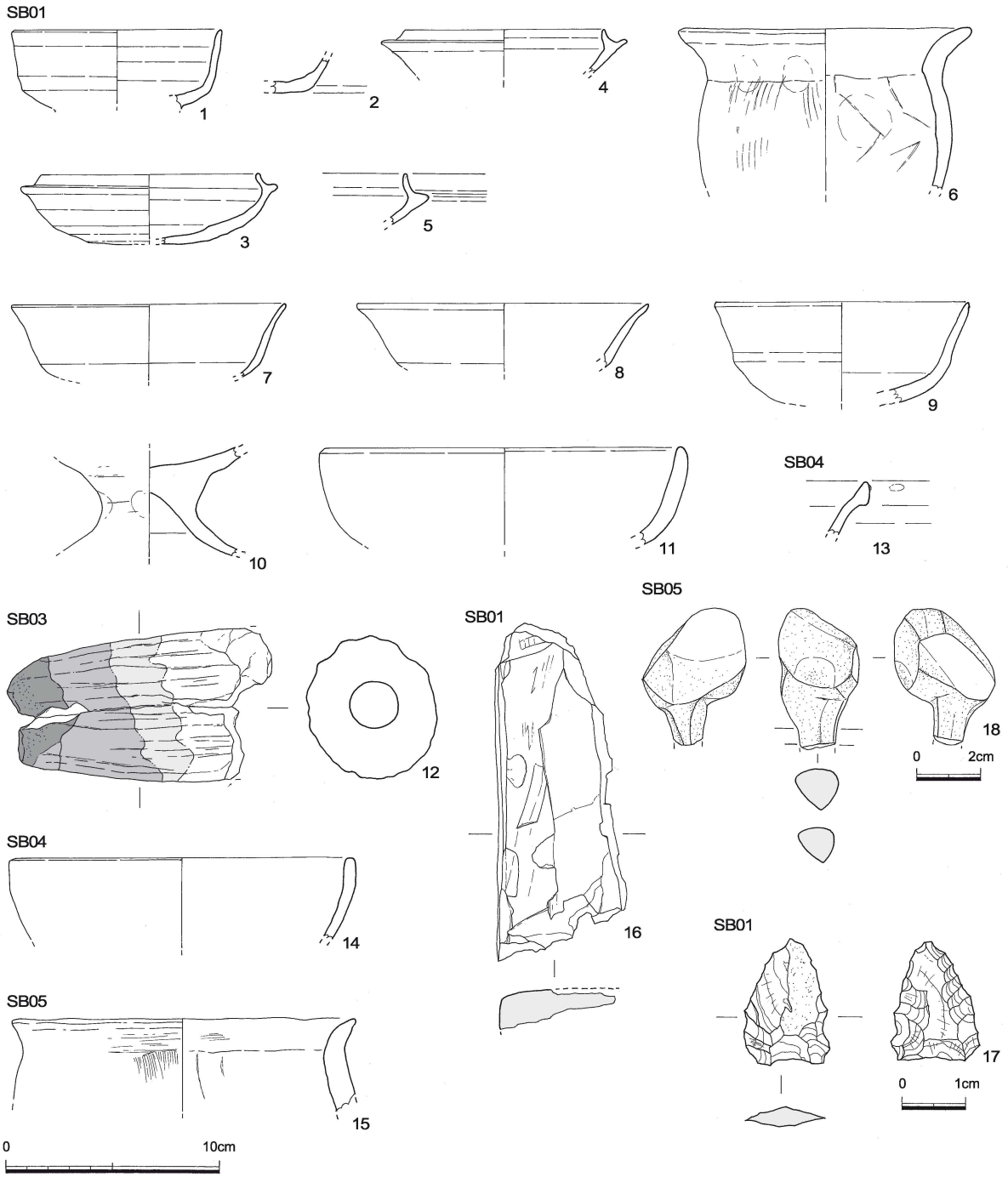


Fig.4　SB01・03・04・05出土遺物（1/3・1/2・1/1）

SB04（Fig.1・4、PL.1）

図示していないが、東壁にかかる建物で、可能性として報告する。柱方向はSB03に近い方向である。確認規模は3.90mを測る。柱穴平面形は長方形で、規模は長軸長約0.5m、深さは約0.3mを測る。柱径は痕跡から約20㎝を測る。埋土は暗赤褐色土で地山ローム土ブロック混入。

出土遺物　2基の柱穴から弥生土器、古代の土師器・須恵器が少量出土。外にも鉄滓3出土。土器は細片が多い。13は須恵器の壺か甕の口縁。口唇部の形態から7世紀後半から8世紀前半か。調整はナデ。色調は灰色。胎土は細かい白色砂粒を含む。14は土師器の鉢口縁部。復元口径16.0㎝を測る。器壁は摩滅し調整は不明。色調は橙色を呈す。胎土に2㎜内石英・長石粒を含む。13はP1、14はP2出土。

SB05（Fig.3・4、PL.1）

SB01の東側で主軸をN-16°-Eに取る梁間・桁行2間×4間の建物。北東側は攪乱で削平が著しく不明。規模は梁間が4.80m、桁行9.60mを測る。柱穴平面形は方形または長方形で、規模は長軸長が約0.8～1.2m、深さは約0.3～0.6mを測る。柱径は痕跡から15㎝前後と推定する。

出土遺物　各柱穴から弥生土器、古代初め頃の土師器・須恵器と砥石や黒曜石剥片、鉄滓1などが少量出土している。15は土師器の甕口縁。復元口径16.0㎝を測る。調整は外面ハケ目とヨコナデ、内面は口縁ハケ目、胴内面摩滅するがヘラケズリ。7世紀後半代のもの。18は砂岩製の礫錐。錐先は欠損する。残存長4.3㎝、最大幅3.1㎝を測る。表面は研磨仕上げである。15・18はP3出土。

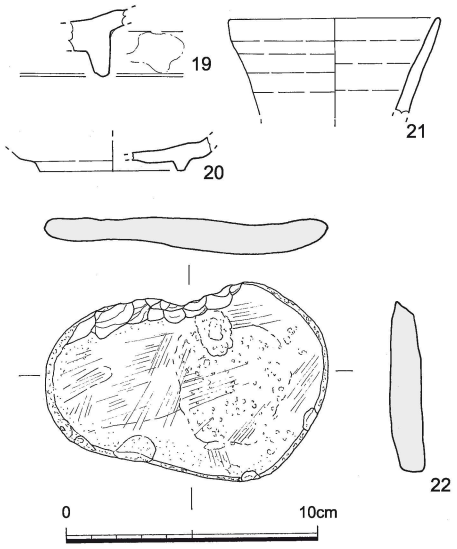


Fig.5 SD01出土遺物（1/3）

② 溝状遺構

SD01（Fig.5、PL.1・4）

調査区南側で検出した主軸をN-87°-Eに取る東西方向の小溝。確認長約9m、幅約0.6～0.9mを測る。深さは約0.1～0.15mを測り浅い。埋土は暗褐色(7.5YR2/4)土である。

出土遺物　弥生土器や古墳時代の土師器・須恵器、中世の土師器、輸入磁器の白磁・青磁と、石錘、黒曜石剥片などが少量出土している。19は白磁碗の底部細片。大宰府編年のⅥ類に近い形態か。高台外面から内面はくすんだ乳白色釉がかかり、見込みに粗い貫入が入る。高台内はケズリ。20・21は須恵器。20は坏の底部。復元高台径5.8㎝を測る。調整は回転ヨコナデ。21は漏斗状に開く口縁。口径8.4㎝を測る。調整は回転ヨコナデ。色調は黒色を呈す。22は石錘か。扁平な下膨れの楕円形状を呈す。最大長11.2㎝、最大幅7.9㎝、厚さ1㎝前後を測る。表面は敲打調整後擦り仕上げであるが、側面などに敲打痕が明瞭に残る。右側面を打欠く。形態から錘と考える。

③ 土坑

SK01（Fig.6、PL.2・4）

調査区南西隅で検出した、SB01柱穴P7を切る隅丸長方形状を呈す土坑。規模は長軸長1.25m、短軸幅0.65m、深さ0.20mを測る。壁面は急である。埋土は暗赤褐色から赤黒色土で黄褐色粘土ブロックを若干含む。

出土遺物　弥生土器や古墳時代以降の土器細片多数と、砥石片、石鏃、黒曜石剥片などが出土。重複関係から7世紀後半以降の時期。29は黒曜石石鏃。基部は平基で、形状は偏った三角形状を呈す。鏃身2.0㎝、最大幅1.5㎝、厚み0.4㎝を測る。全面に細かい調整を加えるがやや雑である。

SK02（Fig.6）

調査区南側、SD01の下で検出した隅丸長方形状を呈す土坑。底面には楕円形状の落込みがある。規模は長軸長1.23m、短軸幅0.63m、深さ0.33m、浅い落込み部で0.40mを測る。埋土は暗赤褐色から黒褐色土で黄褐色粘土ブロックを若干含む。

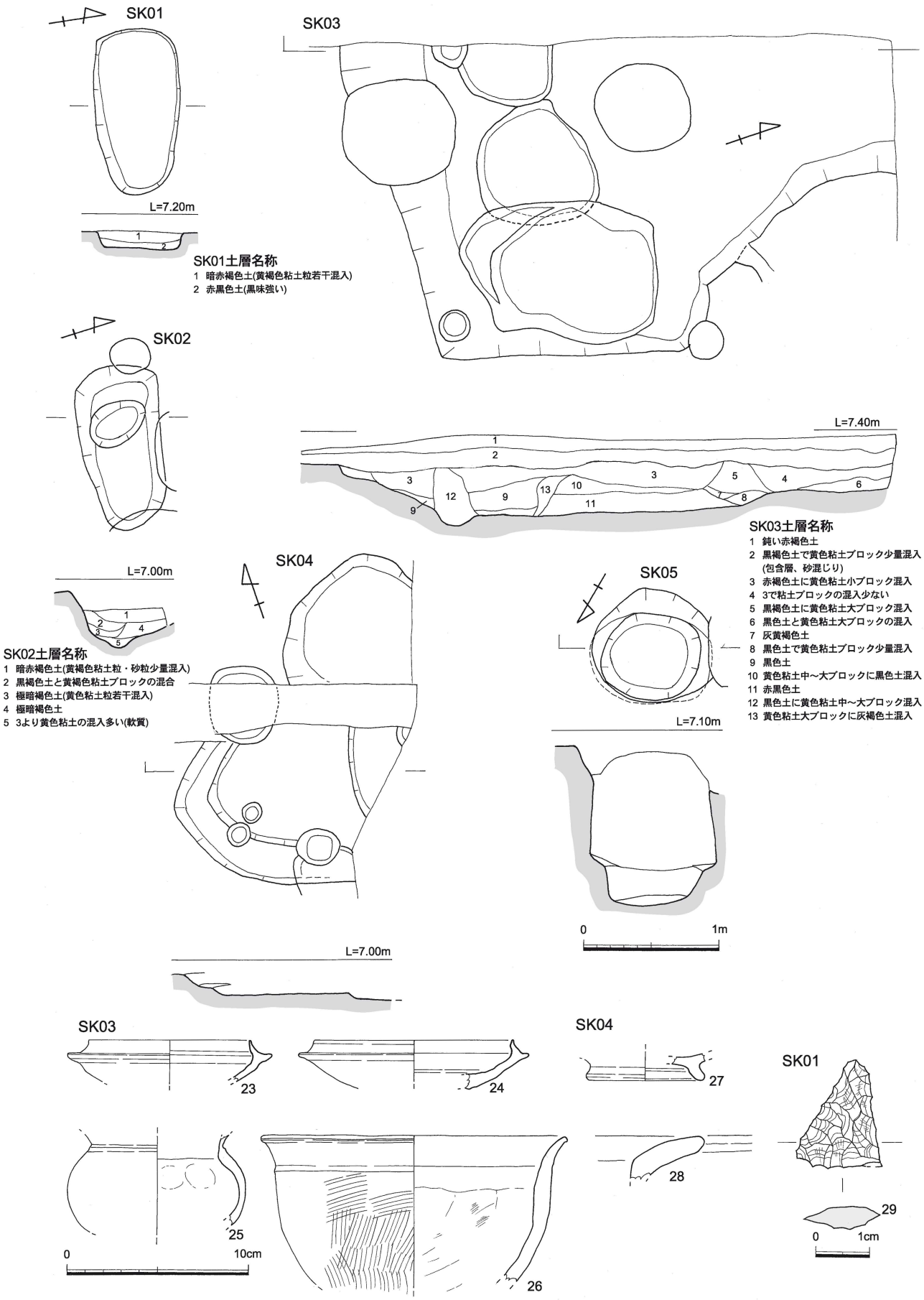


Fig.6　SK01～05と出土遺物（1/40・1/3・1/1）

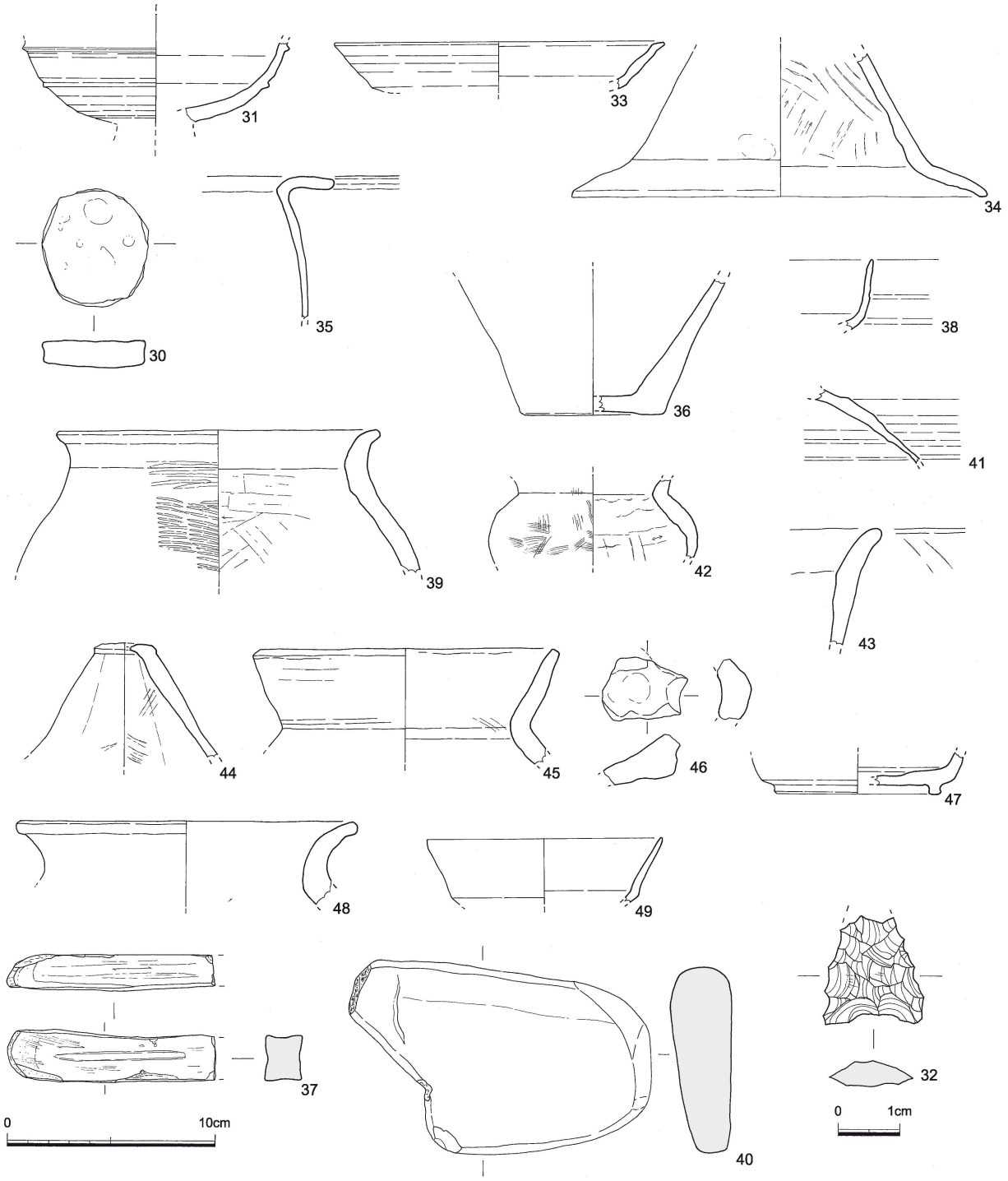


Fig.7　ピット出土遺物（1/3・1/1）

出土遺物　弥生土器、古墳時代から古代初め頃の土師器・須恵器が出土。いずれも細片である。

SK03（Fig.6、PL.3・4）

調査区北西部で検出した大型の土坑状の落込み。SB01や大型ピットが上面より掘り込む。南東側で直角状にコーナーを持つ。規模は南北長4m以上、深さは0.35mを測る。埋土は上層が赤褐色から黒褐色土、下層は黄色粘土ブロックが主体となる。

出土遺物　弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器などと黒曜石剥片・石核と鉄滓4が出土。23・24はⅣA期の坏身。復元口径9.0㎝・11.0㎝を測る。24は外底部回転ヘラケズリ。口縁部から体部は回

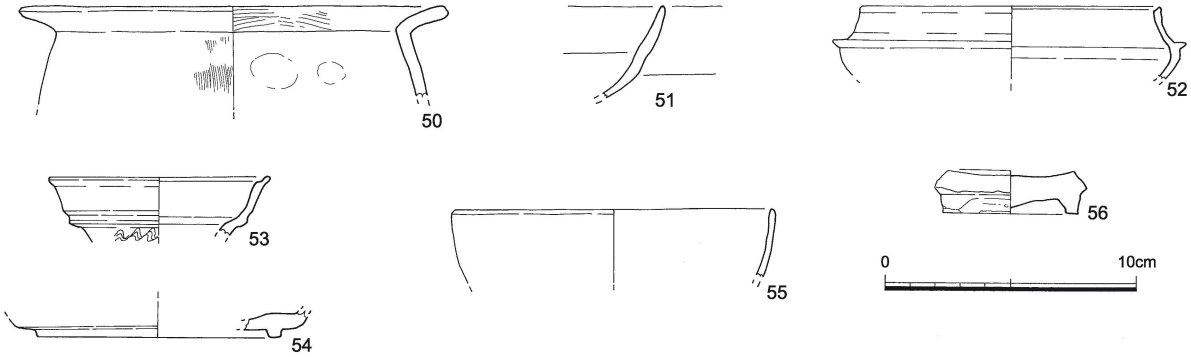


Fig.8　包含層・表土出土遺物（1/3）

転ヨコナデ。色調は灰オリーブ・灰色。胎土はいずれも精良。25・26は土師器。25は小型壺胴部。器壁は摩滅し調整は不明。内面は指抑え痕が残る。色調は橙色を呈し、胎土は精良。26は土師器の鉢。復元口径17.0㎝を測る。調整は体部外面粗いハケ目、口縁部はヨコナデ、内面はハケ目後ナデ。色調は鈍い黄橙色を呈し、胎土に2㎜内外白色砂粒多量混入。5世紀頃のものか。

SK04（Fig.6）

調査区北東側、壁にかかる不定形の土坑。上部には旧建物基礎がかかる。長軸長1.85mを測る。底面はテラス状に深くなり、最大深さ0.20mを測る。埋土は暗褐色土で、黄色粘土ブロック混入。

出土遺物　弥生土器、古墳時代から古代にかけての土師器・須恵器、古代の黒色土器が少量出土。27は黒色土器B椀底部。復元底径6.6㎝を測る。器壁は摩滅し調整は不明。色調はオリーブ黒色を呈す。10世紀中から後半のもの。28は土師器の甕口縁部片。8世紀のもの。器壁は摩滅し調整は不明。色調は黄橙色呈す。

SK05（Fig.6、PL.3）

調査区南西隅で検出した平面形が不整円形を呈す土坑。SB01に切られる。規模は0.90×0.85m、最大深さは1.14mを測る。底面は二段掘りである。褐灰色の八女粘土層まで掘り込んでいる。井戸の可能性がある。

出土遺物　弥生土器の甕などの細片が出土したが、量は少なく、図示出来るものもない。

④ ピット出土遺物（Fig.7、PL.4）

図化出来た遺物を報告するが、必ずしもピットの時期を表すものではない。30はSP02出土。土製円板で径は5.6×5.1㎝、厚さ1.3㎝を測る。色調は橙色を呈し、胎土に2㎜以下石英・長石粒多く混入。31はSP03出土。須恵器の高坏坏部で外面櫛描波状文を施す。色調は外面オリーブ黒色、内面自然釉がかかり灰白色を呈す。32はSP05出土。黒曜石の石鏃。平基で先端を欠損する。鏃身は現存で1.7㎝を測る。表面の風化、欠損が著しい。33・34はSP46出土。33は土師器皿。復元口径16.0㎝を測る。調整は回転ナデ。色調は灰白色を呈す。8世紀後半のもの。34は高坏脚部。脚裾径は20.0㎝を測る。調整は外面器壁が剥離し不明、内面は、裾部は不明であるがケズリとナデ。色調は橙色を呈し、焼成はやや不良。35はSP65出土。弥生土器の須玖Ⅱ式甕口縁部で、器壁は摩滅し調整は不明。色調は浅黄橙色を呈し、焼成はやや不良。36はSP71出土。弥生土器の甕底部。復元底径7.0㎝を測る。器壁は摩滅し調整は不明。色調は鈍い黄橙色を呈す。37はSP81出土。小型の仕上げ砥石。残存長10.0㎝、幅2.5㎝を測る。断面は方形を呈す。各面は使用し、鋭利なものを研いだのか明瞭な窪みが残る。石材は粘板岩。38はSP82出土。須恵器の坏口縁部。調整は回転ヨコナデ。色調は灰色で、自然釉がか

かる。39・40はSP84出土。39は土師器の甕で復元口径15.6㎝を測る。外面は口縁部ヨコヘラミガキ、胴部は平行タタキ。内面はナデとケズリ。40は扁平な円礫を使用した叩石か。全長14.5㎝を測る。上部先端は使用によるのか面が潰れている。色調は灰白色を呈す。石材は花崗岩。41はSP92出土。須恵器の蓋小片。ナデと外面天井部回転ケズリ。8世紀前半頃のもの。42・43はSP115出土。42は小型壺の胴部。SK03出土の破片と接合。外面細かいハケ目、内面ケズリ。古墳時代前期のもの。色調は鈍い橙色を呈し、胎土に砂粒以外、赤色微粒子多く混入。43は甑の口縁部。外面はナデ、内面は摩滅し調整は不明。44はSP117出土。外来系の小型器台の脚部。色調は鈍い黄橙色を呈す。45・46はSP121出土。45は土師器の甕口縁部。復元口径14.8㎝を測る。調整は口縁部ナデで、色調は浅黄橙色を呈す。5世紀頃のものか。46は匙の一部。器壁は摩滅し調整は不明。色調は灰白色を呈し、焼成はやや不良。47はSP131出土。須恵器の高台付底部。復元高台径8.1㎝を測る。色調は灰色を呈す。8世紀前半のもの。48はSP136出土。土師器の甕口縁部。復元口径16.4㎝を測る。器壁は摩滅し調整は不明。色調は浅黄橙色を呈す。6世紀頃か。49はSP151出土。古代の土師器で坏と思われる口縁部片。器壁は摩滅し調整は不明。色調は浅黄橙色を呈し、焼成は不良。

⑤ 包含層・表土・その他の出土遺物（Fig.8）

50～54は包含層出土。50は弥生土器の甕口縁部。復元口径17.0㎝を測る。器壁はやや摩滅するが、調整はナデとハケ目。色調は橙色を呈し、焼成はやや不良。51は古墳時代後期の土師器の鉢口縁部。器壁は摩滅し調整不明。52～54は須恵器。52は坏身片。復元口径11.8㎝を測る。ⅢA期のもの。調整は回転ナデ。色調は灰色を呈す。53は瑳の口縁部。復元口径8.8㎝を測る。調整は回転ナデで、外面波状文を施す。色調は灰黄色を呈す。54は大型の坏の底部。復元高台径9.6㎝を測る。調整は回転ナデ。55・56は表土出土。55は土師器の鉢か椀の口縁部小片。器壁はやや摩滅するがナデか。56は青磁碗底部。復元高台径5.4㎝を測る。発色は悪いオリーブ黄釉の施釉で、畳付は釉を掻き取る。

この他、図示してはいないが、各遺構から若干の旧石器時代と思われる遺物が出土している。内訳はSP106黒曜石剥片1、包含層黒曜石石核1、SK03と出土地不明から、サヌカイト剥片各1である。

3. まとめ

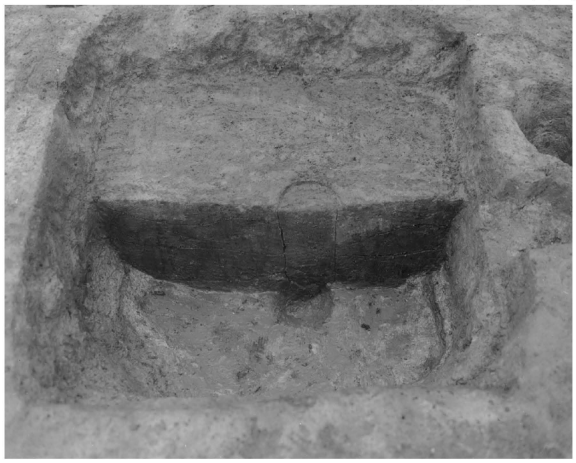
遺構の時期は大きく古代と中世の二時期である。

古代は検出遺構の中心時期で、掘立柱建物や土坑などである。建物は5棟検出したが、いずれも大型である。重複関係から見るとSB03→SB01・05→SB02となる。SB04は一部のみのため不明。SB01・05は主軸がやや異なるが、規模はほぼ同じの側柱建物で近い時期のものであろう。建物の時期としては、柱穴で遺物が少ないこともあって判断は難しいが、少量の遺物から7世紀後半～8世紀頃と推定する。ただSB01遺物7・8は山本信夫氏の歴史時代土師器編年のⅥ・Ⅶ期に近く、9世紀前半に下る可能性がある。土坑群も古代で7世紀頃～10世紀の時期で、SK04が10世紀で比較的新しい。西側の第137次調査区では弥生時代など古い時期の遺構・遺物が多く検出されていることから考えて、当地点では大型建物建設に伴って、古い遺構を削平した可能性がある。また大型建物は有田遺跡群内に置かれていた早良郡衙に関連するものと思われる。検出した建物群の分布では最も東側に位置するものである。今後の周辺の調査に期待したい。

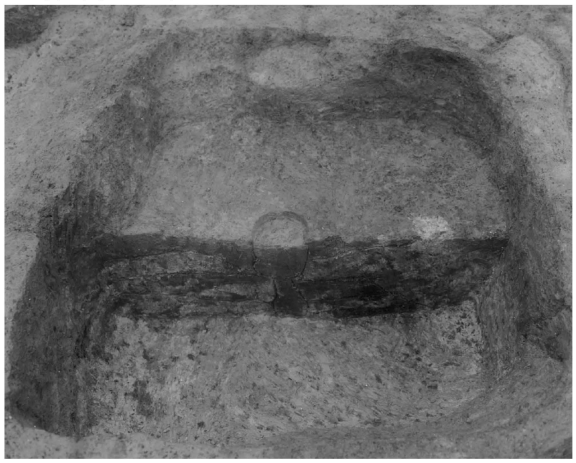
中世は溝SD02の時期である。遺物が少なく、いずれも小片であるが、中世の中国産輸入青磁・白磁、土師器などが出土している。出土した白磁から12世紀以降の時期と考える。

第132次調査

（1）第132次調査区全景（東から）



（2）SB01柱穴P2断面（東から）



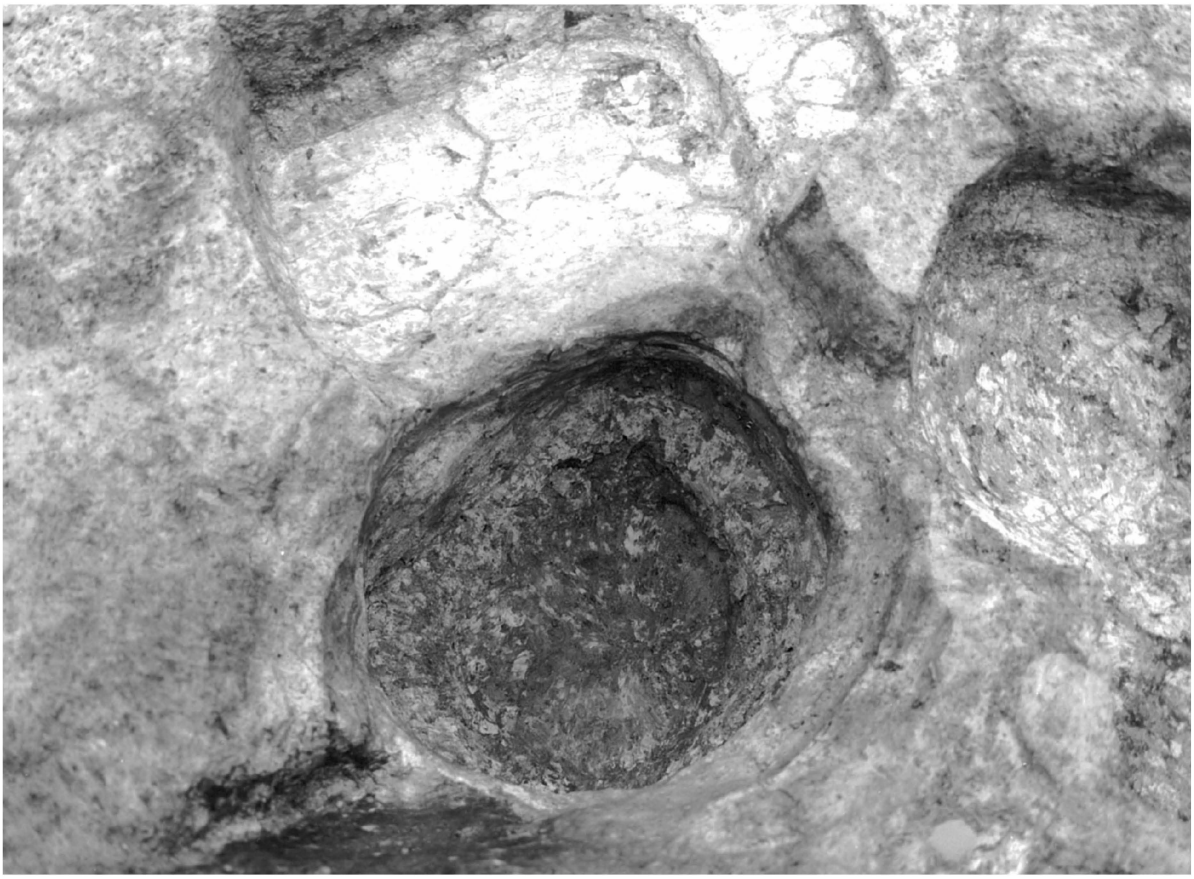
（3）SB01柱穴P3断面（東から）

（4）SD01（北東から）

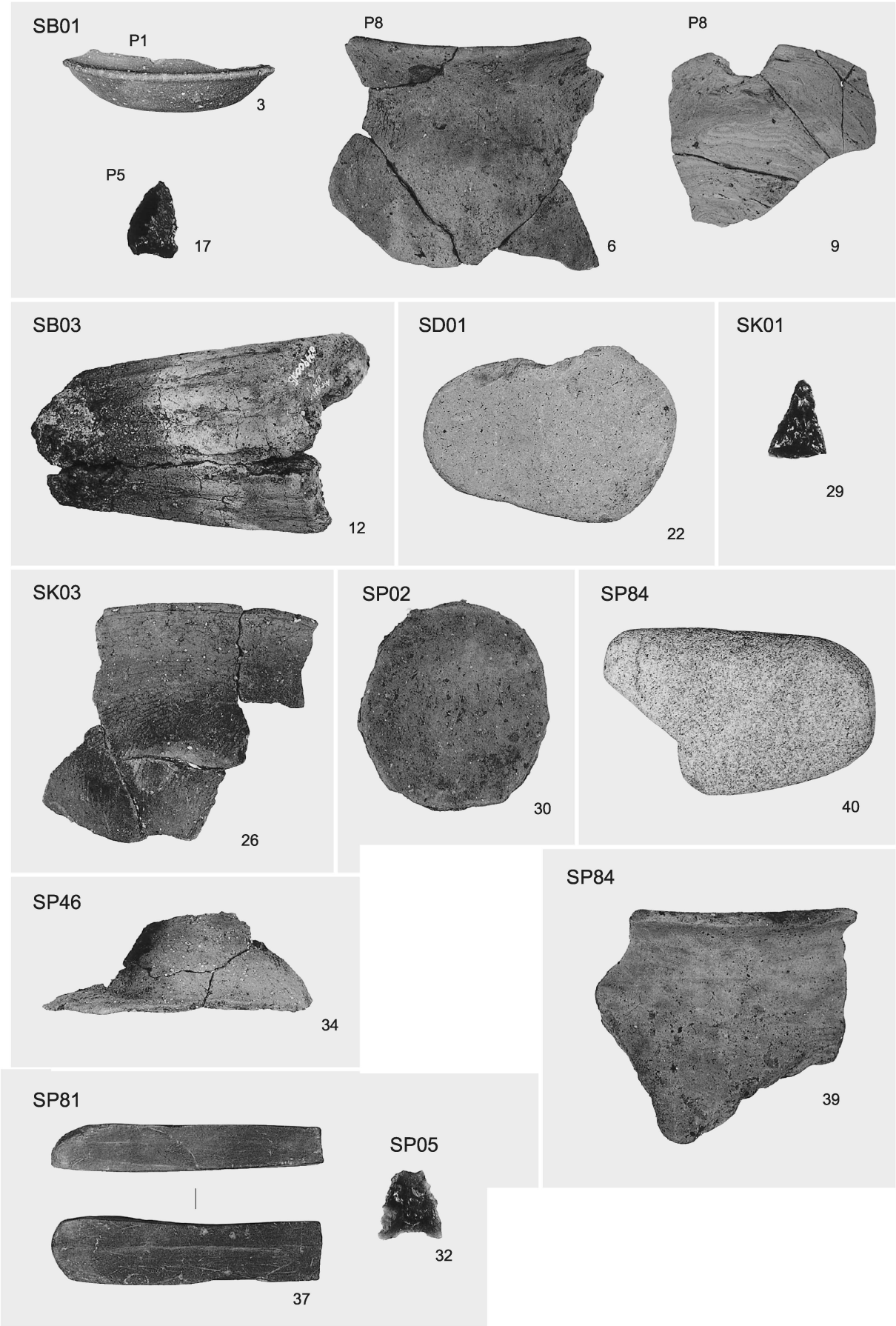
（1）SB03 P2羽口出土状況（西から）

（2）SK01（南から）

（1）SK03（北から）



（2）SK05（南から）



各遺構出土遺物（縮尺不統一）